

小 学 校 外 国 語

1 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じ、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

2 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) (知識及び技能)

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) (思考力、判断力、表現力等)

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

(3) (学びに向かう力、人間性)

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 新設の要点

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り] 話すこと [発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、資質・能力を一体的に育成する。

(1) 高学年(5, 6)年生に年間70時間位置付ける。

(2) 聞くこと

① ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

② ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

③ ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

(3) 読むこと

① 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

② 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

(4) 話すこと [やり取り]

① 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。

② 日常生活に関する身近で簡単な事柄、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

③ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり、質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

(5) 話すこと [発表]

① 日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のこと、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

② 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

③ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

(6) 書くこと

① 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

② 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

4 言語活動及び言語の働きに関する事項

- (1) 「聞くこと」

自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動 等。
- (2) 「読むこと」
 - ① 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
 - ② 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。
 - ③ 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
 - ④ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。
- (3) 「話すこと[やりとり]」

初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をしたりして、それらに応じたり断ったりする活動 等。
- (4) 「話すこと[発表]」

簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動等。
- (5) 「書くこと」
 - ① 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。
 - ② 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。
 - ③ 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。
 - ④ 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

5 指導計画の作成と内容の取扱い

- (1) 指導計画の作成に当たっては、第3学年及び第4学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意する。
- (2) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること
- (3) 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。
- (4) 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること
- (5) 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。
- (6) 文や文構造の指導に当たっては、文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。
- (7) 障害のある児童などに対しては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (8) 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

6 評価

観点に基づき、評価すること。

7 移行期間における留意事項

- (1) 外国語15時間、外国語活動35時間を実施する。総合的な学習の時間から15時間振り替えることが可能。
- (2) 教材は、現在文部科学省が開発している新学習指導要領に対応した教材から必要な内容を配布する。
- (3) 評価については、外国語活動の3観点で評価する。外国語について指導要録に記述する場合は、顕著なものがある場合、総合所見の欄に文章で記述する。

